

★ASIAN DIVERSITY★

No. 1

—「男は女より偉い？ イスラームの視点から」—

東京大学日本・アジアに関する教育研究ネットワーク (ASNET) では毎週木曜日夕方にセミナーを開催しております。このコーナーでは、当セミナーでの報告を紹介する形で、アジアに関する様々な研究をご紹介します。第一回は後藤絵美氏 (日本学術振興会、特別研究員) による、「イスラームの女性観—男女の優劣をめぐる啓示解釈を中心に—」 (2010年6月24日開催) です。

イスラーム社会の女性という、皆様はどのような印象をお持ちでしょうか。イスラームは女性に厳しい宗教なのか、それとも優しい宗教なのか。イスラームの女性観をムスリム知識人の言葉から検討していく、というご報告でした。

「男性は女性のカフワームである」、「男性は女性の一段上にある」。クルアーン (コーラン) のこうした言葉について、近代から現代に至るまで、様々な解釈がなされてきました。ムスリム知識人の間では近代に入っても、この言葉を解釈するにあたって、「男性は女性よりも優位にある」ことを示したものだ、という見方が優勢でした。19世紀に入り、ムハンマド・アブドゥという学者は、男女の格差を夫婦関係に限定することで、それまでの解釈を大きく変えたそうです。

その後、20世紀に入り、サイイド・クトゥブという思想家が、家族という社会集団の中で、男女が異なる役割を担っていることを示すものだという解釈を提示しました。更に、アミーナ・ワドゥードという在米の女性学者が、クトゥブの見解を受け継ぎつつ、更に斬新な解釈を打ち出しました。男女は『同等』であり、男女の違いは女性のみが子供を妊娠し、出産することができる、という点である。このとき、「男性は女性のカフワームである」という言葉は、女性を精神的、知的、物質的に女性をサポートすることである。しかし、これらは責務ではなく、あくまで個人が心がけるべき、姿勢である、と。

後藤氏の発表に対して、「学者の解釈には、実際のイスラームの女性観がどのくらい反映されているのか」、「解釈の変容はイスラーム社会の変容とどの程度、相互関係があるのか」などの質問がなされました。ワドゥードの解釈は現代のイスラームにおいても必ずしも優勢ではないそうです。ムスリム女性の社会進出や服装の変化といった社会的な変化を、宗教言説の変化から検討していきたい、というのが後藤氏の展望だそうです。このセミナーの詳細は下記のURLをご参照下さい。

<http://www.asnet.u-tokyo.ac.jp/node/6913>



日本・アジアに関する研究教育ネットワーク (ASNET) 安田佳代

★ASIAN DIVERSITY★



第11回 学生インタビューを受けました

某日、オフィス宛に学生さんよりインタビュー依頼のメールが届きました。依頼主は農学生命科学研究科の大学院生 松葉史紗子さんです。9月にドイツで開催される環境学生会議で発表する為、大学の環境問題への取組について調査しているとの事。リユース事業の目的には「エコ・キャンパス化への貢献」という面もあるので、インタビューに協力する事になりました。



3Rでエコ・キャンパス化

当日、どんな事を聞かれるのだろうかという緊張と期待と共にインタビューがスタート。松葉さんはウェブサイトやコラムを読んで予習をして来てくれたようで、インタビュー中、積極的な質問が沢山ありました。「事業を始めたきっかけは?」「やりがいや苦労した点は?」「PCの回収率は?」「予算は?」...中でも印象的だったのは「環境問題に取り組む学生団体、他大学や企業と協同して行っている事はありますか?」という質問でした。学生団体とは京都大学の学生さんと意見交換する機会がありましたが(学内広報 1398号参照)、他大学や企業と協同して何かをするという事はまだありません。本事業が稼働して2年目に入り、学内での周知や仕組みの改善などやるべき事はまだまだあります。それに加えて、色々な所と連携した新しい事へのチャレンジもまた有意義だな、と熱心な学生さんの姿を見て思うようになりました。

今回の松葉さんや、京大の学生さんなど、本事業を通して環境問題に関心の高い学生さんと話をする機会に恵まれました。熱意を持って取り組んでいる学生さんとやりとりしていると、質問を受けている私達の方が新たに気づく事も沢山あります。私達もより良い学生支援が出来るよう、様々な形で事業を進化させていきたい、そんな事業の在り方も改めて考えさせてくれたインタビューでした。(高)



インタビューアの松葉さん

☆8月各部署ご提供PC☆

宇宙線研究所 1台	文学部 1台
地震研究所 2台	工学部 5台
採用試験事務室 12台	附属図書館 9台

以上30台のノートPCは4回目の募集時に利用させていただきます。どうもありがとうございました。引き続きよろしく願いいたします。

- 問い合わせ先: ノートPCリユースオフィス (本部資産管理部資産課内)
E-mail: pcreuse@adm.u-tokyo.ac.jp
URL: http://pcreuse.adm.u-tokyo.ac.jp/
内線: 22135 (担当 小川・高橋・戸田)
- ノートPC回収先: 美津野商事株式会社システム事業部
E-mail: reuse@mizuno.net (担当 川崎・石井)
電話: 03-3943-0181 FAX: 03-3943-4180